

違いを認め合う心

東京都 渋谷区立笹塚中学校 1年
豊山 由紗（とよやま ゆさ）

「君の気のせいじゃない？」

これは小学生の頃、いじめに遭っていることを、先生に相談した時に言われた言葉だ。予想外の言葉だったので、まずびっくりした。そして血の気が引いていく感じがした。歯をくいしばっていないと涙がでてきそう。もう話せない。「分かりました。」と言って話を終わらせた。

私には持病があるので、小学生の頃からあまり学校へ通えなかった。行ける日でも親と一緒に登校していた。病気の事はみんなに説明している。ただ休みがちで、人とは違う学校生活だったので、何か言われるかもと常に心配だった。悪い予感的中し、ある日突然集団で無視が始まった。あいさつしても、話しかけても徹底的に無視される。気のせいと思いたかった。けれど一緒に来ている親も確認出来るほどになってきた。もうダメだと思い、先生に相談すると「無視する子は悪いよね。それでも君からのあいさつは続けてほしいな。相手からあいさつが返ってこないからといって、こっちもやめたらダメだよね？」となぜかダメ出しされた。努力するのは私の方なのか。私は先生に頼ることをやめた。スクールカウンセラーと面談もしたが「家の中で楽しみを見つけてみて。」というアドバイスだけで終わった。

しばらくは何もする気が起きず、悲しい気持ちでいっぱいだった。私が学校へ毎日通えないのはしょうがない事。誰かがそういう私を見て、イヤな気持ちになるのは止められない事。理解してほしいと言ったところで、当人にならないと本当に理解する事は出来ないだろう。どうすればいいのか。散々考えたあげく、良い答えは出ないと分かった。そして時間をもったいないと気づいた。こんな事で悩んでるのは私、バカじゃないの。命にかかわる事でもないのに。私は人の顔をうかがって生活するつもりだったのか。私はそんなに弱いのか。悲しい気持ちはなぜか怒りに変わり、我に返った気がした。

「価値観や正解は人によって違うから、自分だけが正しいと思っはいけない。努力をしても話の通じない人がいたら、戦わず距離をおきなさい。」と言われたことがある。もしかしたらいじめる側にも理由があり、それがその人の正解なのかもしれない。でも私たちは人間で、頭でしっかり考え、口に出して相手に気持ちを伝えられる。そして相手の立場を想像する事だって出来る。それをせずに相手を攻撃するのは、もはや話が通じる人間とは思えない。側にいると、傷が深くなるばかりだろう。だから距離を置き、逃げるしかない。そしてその先には、受け入れてくれる場所が必要だ。それは家族の元であればいいし、理解が得られなければ、分かりやすくアクセス出来る、フリースクールのような場所が必要だと思う。

中学1年生の私は、非力で自分の身の周りの事で精一杯だ。でもやりたい事や将来の夢がある。叶えるために、今やらなければいけない事も分かっている。人に振りまわされているヒマはない。自分で自分を大切にすべきだ。

「人が人らしく生きる権利」自分の人権を守るためには、自分も他人の人権を守らなければならない。まず人を傷つけない事。自分と違う境遇、自分と違う考え方や意見を認める心を持つ。納得が出来なくても、理解する努力をしてみる。「そういう物の見方があるんだ。」「私ではその意見は思い付かなかった。」と相手との違いを、ポジティブに楽しむ事がとても大切だと思う。そうすれば相手も心を開き、受け入れてくれるだろう。

「多様性を尊重する」とニュースでよく耳にする。これから日本は人口が減って、外国人が増えていくのかもしれない。そうなるとなおさら柔らかい心で、人種を越えて他人を理解し、尊重する心を持たないと、世の中がうまくまわらないだろう。排除するのではなく、受け入れる。今は未来につながっている。私たちはその準備の真っ只中にある。多様性を受け入れ成長していこう。そしてみんなが平等で、生きやすい世の中を、アイデアを出し合い作っていかなければいけないと思う。